



# 四中たより

進もう おおらかに  
学ぼう うるわしく  
励もう たくましく

第6号 R3.8.27(金)

発行責任者 四中学

TEL 31-0911

## 「協力と団結」の2学期・第3ステージがスタート

夏休み中、部活動の大会が開催され、音楽部のNコン県大会金賞（東北大会へ）や卓球部・陸上部の東北大会での活躍、野球部の新田カップでの優勝など、各方面で生徒の頑張りが見られました。加えて、卓球部の梅木大智さんは、東北大会で個人優勝を果たし、23日（月）～26日（木）に栃木県で開催された全国大会に出場し、多くのことを学んできました。ご指導・ご支援くださった皆様方に心から感謝申し上げます。

また、夏休みに入ると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のペースが速くなり、県内でも50人を超える感染が報告されました。県は、8月20日から9月12日まで、感染拡大を抑えるため「感染拡大防止特別集中期間」を設定するに至っています。社会的にはこのような状況ですが、本校においては、この夏休み中、大きな事故・事件などがなく、今月24日（火）に2学期をスタートすることができました。保護者の皆様や地域の皆様の見守りに感謝いたします。

始業式では、1年生：菅原好さん、2年生：奥山陽加里さん、3年生：菅原駿介さん、生徒会：今井咲希さんの代表4名が「2学期の抱負」を発表しました。「将来を考えるきっかけにする」「生活習慣を見直す」「価値ある1日を送る」「地域をよくする」など、「頑張ろう」というエネルギーに満ち溢れ、前向きな決意のこもった発表でうれしくなりました。

### 2学期始業式 校長のはなし（一部抜粋）

今日から、2学期です。学校全体として10月末まで、「協力」と「団結」をテーマに様々なことに取り組んでいきます。皆さんは、この「協力」や「団結」を実感できるのはどんな時でしょう。

私は、一つ目は、それぞれの「責任を果たす」ことだと思います。自分の仕事ややるべきことには誠意を持って、歯を食いしばって取り組むことです。それでも、自分一人では難しいときには「助けて」と言うことも大切です。四中の生徒は「助けて」と言っている人がいたら、絶対一人にはしない人たちだと思います。

二つ目は、「多様性を認める」ことです。人には、顔や体格のように、はっきり目に見える違いもあれば、考え方や感じ方、性格といったように目に見えない違いもあります。考え方が違うから、その人を「はじく」のではなく、その違いをお互いに理解し、尊重しながら生活をしてほしいと願っています。そうすることで、他人を思いやる言動が増え、コミュニケーションがよりスムーズになると思いますし、温かい雰囲気の中で安心して様々な活動ができると思います。

そして最後に、「折り合い（合意形成）をつけること」です。先ほど言ったように、一人一人みんな違うのだから、理解し合うためにもそれぞれの思いを声にしなければなりませんし、もしかすると意見がぶつかることもあるかもしれません。そんな時、「どうして相手はそう思うのか？」を考えることで、それぞれの思いを受け止め、多様性を認めながら、「より良いものにするために」をよりどころに折り合いをつけて、様々なことに取り組んでほしいと思います。

そうすることで、より強い「団結」を実感し、1学期より、さらに「四中愛」が深まることを期待します。



9月1日（水）～3日（金）の日程で、「輝きタイム」（1・2年生は職場訪問などの生き方学習、3年生は修学旅行）を計画していましたが、新型コロナの感染拡大により残念ながら中止とします。各学年、



10月上旬に、感染状況を見ながら、代替の活動ができないか検討をしていきます。特に3年生にとっては、中学校最大の行事が中止となり、慙愧に堪えませんがご理解くださいますようお願いいたします。

生徒会スローガンが体育館に掲げられました。